

## 1 研究主題・副主題

令和6年度 甲府市立池田小学校 研究主題

# 「学び合い，高め合う，心豊かな児童の育成」

～学びを深めるICTの効果的な活用～

## 2 研究主題・副主題設定の理由

### (1) 児童を取り巻く社会情勢より

中教審から示された『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して』では、「一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要」とされている。そしてこれを実現するためには、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげることが重要であると考えられている。

授業改善はこれまでも継続的に研究されてきていることであり、この研究実践により得られた成果を継承しつつ、新たに配備されたICT環境を効果的に活用することにより、さらに児童に最適な学びを追究することが求められている。

### (2) 本校の学校経営スクールプラン、及びこれまでの研究より

本校では、学校教育目標「学び合い，高め合う，心豊かな児童の育成」を掲げ、「いっしょうけんめい考える子ども」「健康になろうとする子ども」「だれにもやさしくする子ども」を目指し、知・徳・体を一体的に育む教育活動を進めてきた。それぞれの項目の詳細なプランの中には、「令和の日本型学校教育」において目指されている「個に応じたきめ細かな指導・支援の充実」「ICT機器の活用」等も明記されており、本校では継続的にこれらに取り組んできていると言える。

令和2年度から三年間の研究では、学習評価について継続的に研究を進め、児童の学習状況を適切に評価するために大切なことを確認してきた。中でも、学習前後（単位時間での学習前後、単元での学習前後等、柔軟に捉えている）の個の変容を見取ること、見取る手立てとして記述による学習履歴を蓄積すること等が大切ではないか、ということが確認された。これは前述の「個に応じたきめ細かな指導・支援の充実」に関わる内容であり、昨年度はこれに「ICTの活用」を意図的に結び付け、個に応じた最適な学びや協働的な学びのより一層の充実を目指した。

各学年の発達段階に合わせて様々なアプリを使い、その効果について検証、共有する中で、我々がICTを授業で活用する際に意識した主な視点は「共有」「可視化（児童自身が客観視）」「連続的なデータの保存（児童自身の変化）（学習の対象の変化）」であることがわかり、児童にとって効果がある使い方なのか、教師にとって指導改善に繋がる使い方なのかという視点と合わせ、ICTを活用する場面を考える際のキーワードとしていくことが確認された。また同時に、児童にルールを守って使おうとする心情を育むための明瞭な約束事を提示することや、学習だけでなく児童の心の状態を把握する手段として活用する方法を模索することの必要性も確認された。

スクールプランには他に、「心と体の健康，望ましい食習慣や生活習慣づくり」も明記されており，運動の日常化や食教育，危機回避能力の育成等，発達段階に応じて必要な知識や経験が蓄積されるよう指導してきた。昨年度は，デジタル機器の多用に伴う心身の不調に焦点を当てた学習会を行い，健康面に留意しながら機器を使おうとする気持ちを育むことは喫緊の課題であることが確認できた。そのため，「視力と生活習慣（ICTの使用の仕方，外遊び等）の関係性についての保健指導」「ICTの適切な使用を意識付ける環境整備」「外遊びや運動の習慣化」の3点を主な視点として研究を進めた。しかし，指導内容を定着させるためには繰り返し指導していく必要があることや，栄養教育を併せて実施することで児童の意識がより高まるのではないかという反省が得られた。

### 3 研究目標

ICTの活用について研修や授業実践を行う中で，成果と課題を明らかにし，個別最適な学びや協働的な学びを充実させる効果的な活用方法を追究し，学び合い，高め合う心豊かな児童を育成する。

※研究を進めるにあたり，本校では「個別最適な学び」「協働的な学び」を以下のように捉える。

「個別最適な学び」：すべての児童に基礎的な学力を習得させるために，一人一人の実態にあった指導を検討し，実施すること。

「協働的な学び」：児童のそれぞれのもつ個性や資質を生かし，児童同士，または地域の人々等，多様な他者と協働しながらより良い学びにつなげること。

### 4 研究内容・方法

#### (1) ICTの活用に関する学習会

- ・キックスタートプログラムの研修を実施する。講師を招聘し，主にChromebookで使用できるアプリの活用についての理解を深める。
- ・甲府市教育委員会の指導主事を招聘し，Chromebookの活用について生徒指導と学習指導の2つの側面から指導を仰ぎ，理解を深める。

#### (2) ICTを効果的に活用した児童の学びを深める授業づくり

- ・ICTを活用することによって学びが深まると考えられる学習内容を吟味し，授業研究を行うことで，成果と課題を探る。
- ・各学年で身に付けさせたいスキルについて系統表を作成する。
- ・全体での検証の場として年間1回の授業研究を行う。授業後に，成果と課題を検証し，共有できる場を設定する。指導案を作成する際には，令和4年度までの，児童の学習状況を適切に見取り評価する研究を生かし，単元（題材）の目標，評価規準，指導と評価の計画（ICTの活用場面を含む）を記載する。
- ・学年ごとに，児童の実態に即したICTを活用した授業を実施し，レポートを作成する。

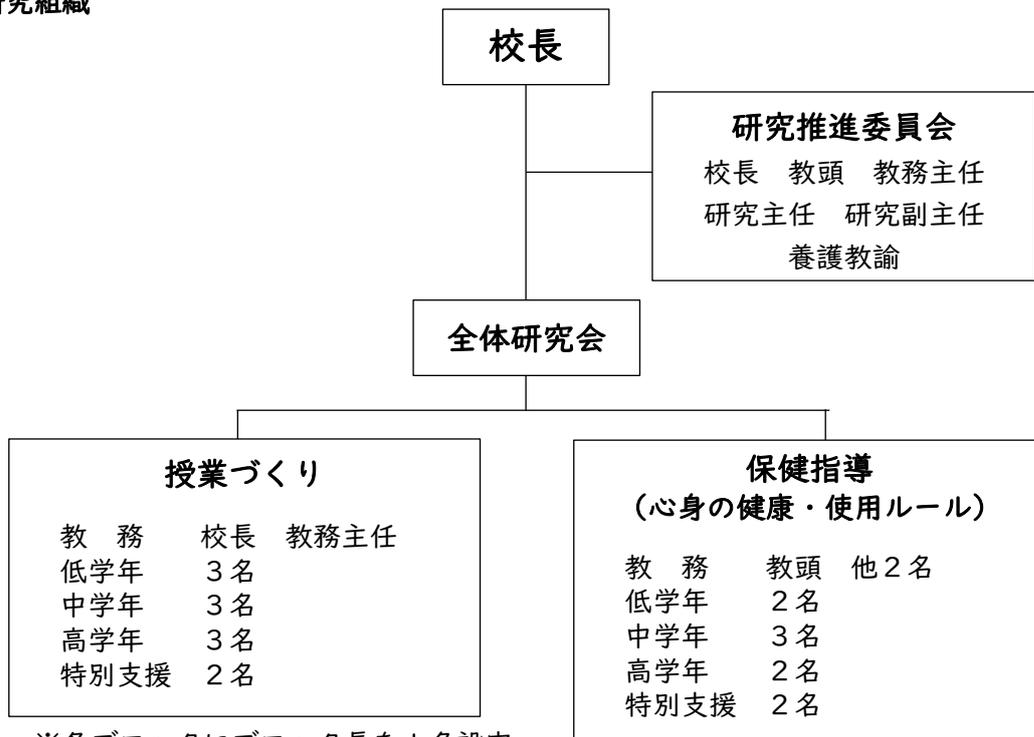
※本校では，ICTを授業で活用する際の視点として，「共有」「可視化（児童自身が客観視）」「連続的なデータの保存（児童自身の変化）（学習の対象の変化）」の3点について共通理解を図っている。この3点を基本としながら研究を進め，新たな視点を模索していく。

※ICTを活用した教材，教具は，『共有ドライブ→池小フォルダ→06 教材等』に随時保存し，共有する。

(3) デジタル機器の使用に関わる保健指導

- ・昨年度の研究を基に，本校の児童の実態に合った保健指導や栄養に関する指導について検討し，実施する。
- ・児童会活動及び委員会活動で実施できる児童を主体とした活動について検討し，実施する。
- ・時期を設定し，保健指導に関わる児童の意識調査を実施し，実態や変容を把握し，指導等の内容について精査する。

5 研究組織



※各ブロックにブロック長を1名設定

## 6 研究計画

| 回数 | 月日        | 内容  |
|----|-----------|---|
| 1  | 5/9 (木)   | 今年度の研究について提案（全体会后，ブロック研究会を予定）<br>保健指導ブロックは1学期中の授業実施とアンケート実施時期について検討 |
| 2  | 6/12 (水)  | I C Tの活用に関する学習会（市教委指導主事）  |
| 3  | 7/23 (火)  | I C Tの活用に関する学習会（キックスタートプログラム）<br>ブロック研究会                            |
| 4  | 8/20 (火)  | 教育課程研究協議会還流報告・ブロック研究会   |
| 5  | 9/18 (水)  | 研究授業の概要・2学期以降の保健指導の計画（全体）   |
| 6  | 10/9 (木)  | 研究授業指導案検討（全体）   |
| 7  | 11/8 (金)  | 研究授業・研究会（講師招聘）  |
| 8  | 12/18 (水) | 研究紀要について  |
| 9  | 1/24 (金)  | 各学年のI C Tの実践共有（気持ちメーターの総括？）   |
| 10 | 2/7 (金)   | 研究のまとめと来年度の方向性について  |

※「使用」と「活用」

使用→児童が使う場面を想定

活用→教師が意図的に使う場面を想定